

揖斐郡教育会研修総会

日時：令和7年1月23日(木) 15時15分～16時30分
揖斐郡教育研修センターより各校へリアルタイムオンライン配信



令和6年度 揖斐郡教育会研修総会の日程

【第Ⅰ部】 15:15～15:45 (30分間)

- (1) 開会の辞(+総会の意義) 揖斐郡小中校長会長 澤田 辰男 校長
- (2) 挨拶 揖斐郡教育会会長 揖斐川町教育長 香田 静夫 様
- (3) 実践論文入賞者紹介 優秀者のみ名前の読みあげ
(※入選・佳作の先生については事前に配付してある総会リーフレットで確認してください)
- (4) 表彰(優秀賞受賞者の表彰) 表彰：揖斐郡教育会会長 香田 静夫 様
- (5) 令和6年度実践論文の講評および指導
(審査委員長：郡校長会研修部長 中島 勝義 校長)

【第Ⅱ部】 15:45～16:30 (45分間)

- (1) 実践論文(優秀賞) プレゼン発表 (15分)
杉山 貴紀 先生(東小)
- (2) 実践論文(優秀賞) シンポジウム (17分)
シンポジウム発表 江崎 綾香 先生(東小)
秋江 諒摩 先生(揖斐川中)
松浦 亮太 先生(揖斐川中)
司会進行：研修統轄 河村 茂雄 校長
- (3) 発表を聞いての感想や学んだこと、これからに生かしたいと思ったことの発表(2名指名)
- (3) 閉式の言葉(及びまとめ) 郡小中校長会研修統轄 河村 茂雄 校長
- (4) 諸連絡 アンケートフォームでの回答、実践論文集の発行について 担当主幹

揖斐郡教育会

令和6年度 揖斐郡教育研究実践論文 入賞者名簿

(敬称略 同一賞内については学番順に記載)

番号	賞	学校名	氏 名	領 域	研 究 主 題
1	優秀賞	東小	江崎 綾香	国語	自分の考えをもち、主体的に取り組む国語の授業づくりを目指して ～単元学習計画の明確化・対話活動の工夫を通して～
2	優秀賞	東小	杉山 貴紀	国語	言葉に寄り添い、国語を楽しむ児童の育成～国語科として 付けさせたい力を明確にした授業実践～
3	優秀賞	揖斐川中	秋江 諒摩	外国語科	中学校における英語発音指導の在り方 ～ AI・ICTアプリケーションを活用した英語発音の一斉指導・個別指導の実践を通して ～
4	優秀賞	揖斐川中	松浦 亮太	学校管理	チーム揖斐川で向かう「新しい教師の学びの姿」を具現する校内研修の充実
5	入選	清水小	脇田 萌樺	健康安全	心身の健康と安全を自ら守ることができる児童の育成 ～「資質・能力」の3つの柱から捉えた健康教育の実践を通して～
6	入選	谷汲小	小森 美玖	保健体育	運動の楽しさを味わい、自ら体を動かす児童の育成 ～年間を通した体力づくりの取組を通して～
7	入選	東小	本田 瑛士	理科	自然の現象を実体的な視点で捉えさせる理科指導の在り方 ～「雨水のゆくえと地面のようす」での理科の見方・考え方を養う実践を通して～
8	入選	揖斐川中	河合 鴻之介	社会科	社会科における調整型自力解決～ 生徒が自ら資料を追究する社会科 ～
9	入選	谷汲中	大石規公代	総合的な学習	未来社会を逞しく生きる生徒の育成～ 「やってみたい」の追究をめざして ～
10	入選	揖東中	遠藤 暖菜	音楽	豊かな情操をもち、生涯にわたり音楽に親しみ続けることができる生徒の育成～仲間とともに音楽のよさや魅力について考えを深める授業を通して～
11	佳作	揖斐小	目黒 花歩	道徳	自己を見つめ、よりよい生き方ができる個の育成 ～道徳科教育の実践を通して～
12	佳作	大和小	中井 友紀	算数・数学	郡教育会研修総会第2部の内容の送付
13	佳作	北方小	中野 智貴	算数・数学	ICTを活用した数学的な見方・考え方を働かせる授業の在り方～ 導入・展開・終末でのICTの効果的な活用 ～
14	佳作	小島小	岡田 知大	特別活動	みんなとなかよく楽しい生活をつくる子の育成 ～係活動の指導を通して～
15	佳作	大野小	川井 里紗	音楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、「わかった」「できた」を実感できる授業づくり

番号	賞	学校名	氏 名	領 域	研 究 主 題
16	佳作	大野小	味岡 遵	国語	学ぶ楽しさを実感し、主体的に学ぶ児童の育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業を通して～
17	佳作	北小	遠藤 彩菜	保健体育	できる喜びを感じ、運動の楽しさを味わわせる器械運動の授業の創造
18	佳作	中小	佐村 美奈	特別支援教育	個に応じた社会的スキルを身に付けるための実践～生活単元学習と自立活動を通して～
19	佳作	中小	竹中 宏太	社会科	一人ひとりが、積極的に授業に取り組む授業づくり ～児童が自分で資料を読み取り、仲間と交流する授業改善を通して～
20	佳作	南小	黒岩 和樹	国語	仲間と楽しく協働的に学び,確かな表現力が身に付く環境づくりの実践
21	佳作	温知小	松野 準平	国語	生きてはたらく言語能力を高める学びを目指して ～学び合いと言語活動の工夫～
22	佳作	宮地小	辻村 杏実	理科	小学校理科における主体的に学習に取り組む態度の育成 ～ ICTの活用・考えの変容を振り返る活動を通して ～
23	佳作	池田小	北川 実来	国語	対話活動を通して、自分の考えを深めたり、新たに創造したりすることのできる児童の育成
24	佳作	養基小	杉本 あかり	道徳	自己を見つめ深く考える子の育成 ～道徳の学びを通して～
25	佳作	揖斐川中	安田 一平	特別活動	持続可能なクラブ指導・運営～10年先を見据えて～
26	佳作	北和中	森本 彰徳	技術	「生活に活きる授業」を目指して(実践の記録)
27	佳作	北和中	武藤 佑佳	国語	「正確に理解」できる授業のデザインと「主体的に学ぶ」生徒の育成 ～ 第2学年の国語科学習の実践を通して ～
28	佳作	大野中	玉井 あいり	保健体育	仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わい,できる喜びを感じながら,主体的に課題を解決しようとする授業づくり ～発達の段階に応じた運動技能を身に付ける指導～
29	佳作	池田中	安田 遥紀	算数・数学	学びを深める生徒の育成



優秀賞論文の概要



(学番順に記載)

東小学校 江崎 綾香 先生	テーマ <国語科> 自分の考えをもち、主体的に取り組む国語の授業づくりを目指して ～単元学習計画の明確化・対話活動の工夫を通して～
本校5年生の児童は、興味があることや物語文に対する関心が高い一方で、自分の意見をもてず、対話活動に参加できないという実態があった。また、自分の意見を伝えること、書くことに苦手さを感じる児童も多く見られた。そこで、一人一人が問いをもち、見通しをもって学ぶことができる単元学習計画の明確化【研究内容1】や、学習用グループを活用した対話活動の工夫【研究内容2】をすれば、一人一人に確かな学びがある国語の授業になるという仮説を立てた。 実践を通して、自分の問いに関わる内容をどこで学習するのか見通しをもって取り組む児童が増えた。また、学力による同質、異質グループを活用することで、自分の考えを教える児童、他者の考えを聞いて意見を深める児童、新たなことに気付く児童などが増え、主体的に取り組むことができるようになってきた。さらに、自分の考えを言語化する機会が増えたことで自信をもって発言する児童が増えてきた。以上のことから、研究主題に迫ることができたと考ええる。	

東小学校 杉山 貴紀 先生	テーマ <国語科> 言葉に寄り添い、国語を楽しむ児童の育成 ～国語科として付けさせたい力を明確にした授業実践～
今日的な課題や本校の学校課題から、豊かな語彙を育み、それを使おうとする児童を育成することが、学力の向上につながると仮定した。そのためには、授業者が単元のねらいや役割を理解し、単位時間ごとにどんな力が付けばよいかを明確にすることが必要であると考え、本実践を行った。研究内容1では、単元で付けるべき力を明確にし、3つの資質・能力に対して各単位時間がどのような役割を担っているかが分かる単元構想図を作成した。研究内容2では、国語科の授業以外でも語彙を増やす活動を考え、家庭学習で行っている音読のやり方を工夫したり、廊下掲示の活用の仕方を工夫したりする実践を行った。本実践を通して、表現に着目して読み取りをしていると自覚する児童が大きく増えた。同時に、「国語が好き」「国語は大切」と考える児童も増えた。これらの結果から本実践が、語彙力を高め、それを活用して読み取る力を伸ばすことに一定の成果があるものと考ええる。また、国語を楽しむ児童の育成に有効であるとも考える。	

揖斐川中学校 秋江 諒摩 先生	テーマ <外国語科> 中学校における英語発音指導の在り方 ～AI・ICT アプリケーションを活用した英語発音の一斉指導・個別指導の実践を通して～
事実として、「発音指導は重要である」と考えている英語教師が大多数いるにも関わらず、発音指導の実践には温度差がある。理由としては「時間がない」「指導方法が分からない」ということが挙げられている。また、語彙・文法・読解・作文に比べると、どうしても発音指導は優先順位が低くなりがちであると感じている。しかし、言葉の根幹を成すのは音であり、言語学習において音を学ばなくてはよいはずがない。本論文は、これらの背景から敬遠されがちな発音指導を少しでも取り入れ、生徒の発音向上に繋げることができないか考え、取り組んできた実践をまとめたものである。効果的な英語発音指導のツールとして主にICT機器を活用した。AIによる発音分析機能は生徒が苦手とする音を明確にするという点で一定の効果が見られたものの、生徒が自身の発音を改善するために使うものとしては限界があることが分かった。教師は分析の結果を踏まえてアクティビティを仕組んだり、個別にフィードバックをしたりする必要がある。そのためには教師自身が日頃から英語音声に興味・関心をもち、学び、日々の実践に落とし込むことが生徒の英語力向上に繋がると考えている。	

揖斐川中学校 松浦 亮太 先生	テーマ <学校経営> チーム揖斐川で向かう「新しい教師の学びの姿」を具現する校内研修の充実
本研究は、「目指す学校像」を目指し、中教審答申で示された「新しい教師の学びの姿」を具現する校内研修の充実を図ることを目的としている。 研究内容1は、「日常的に学び合う授業改善研修の企画・工夫」として、きらめき一番フォトコンテストの実践を通して、職員一人ひとりの教科指導力の向上を試みた。同時に、校内研究への接続や、生徒への目指す学習姿勢の共有等へと発展させた。研究内容2は、「職員のニーズに沿ったコラボ研修の企画・工夫」として、職員間で協力しながら5つの実践に取り組んだ。合唱指導を学級経営に落とし込む研修やケーススタディを織り交ぜた進路指導・特別支援教育に関する研修、実効性の高いLGBTQに関する人権研修など、職員が適宜求めている内容を中心に取り組んだ。日常的に理論と実践を往還し、かつ効果的・効率的な研修を位置づけ、実施したことで職員一人ひとりが互いに学び合ったり、補完し合ったりする姿を生み出すことができた。	